

曳山の伝統美に新風



重文指定へ巡行調査



7日の大津祭の本祭では、曳山の後部に飾る見送り幕を復元新調した郭巨山など、13基の曳山が市中心部を巡行した。国の重要文化財指定に向けて本年度発足した「大津曳山祭総合調査団」による本祭の実地調査や、曳山の重量測定・実演など初の試みもあり、市民や観光客らが熱心に見守った。

(森山敦子)

大津祭を多角的に解明する「大津曳山祭総合調査団」による曳山巡行の実地調査には、調査団メンバーと記録係ら約50人が参加した。各曳山に一日中行して分刻みで記録を取ったり、さまざまな角度から曳山の写真を撮るなど役割を分担し、詳しく調査し

町家の2階からカメラやビデオで撮影する調査団
(大津市中央3丁目)
＝撮影・辰巳直史



黄色い計量器に車輪を載せて重量を測定する
石橋山(大津市の中央大通り)

この日は午後、曳山町内の狛師町自治会館(大津市中央3丁目)に、調査団長の植木行宣・元京都学園大教授と成安造形大の学生らによる写真班約10人が集合。2階に上り、えられた見学席から、からくりの披露を間近で撮影しようとシャッターチャンスを狙った。

植木団長は「初年度の今年の本祭の調査は、実際に祭りがどう動いているのかをきちんと記録するの

見送り 華麗に披露



復元新調され、巡行で披露された郭巨山の
見送り幕(大津市の中央大通り)

郭巨山は今年、江戸時代中期(18世紀)の作で傷みや退色が激し、千万円かけて復元新調した。花咲く山中で戯れる2頭の唐獅子の図柄を、金箔などを織り込んで復元、朱色の地など当時の色合いも鮮やかに再現した。

見送り幕は前日の宵宮で初めて曳山に掲げられ、本祭のこの日、巡行する曳山の後部を華麗に彩った。郭巨山保存会の梅村正司会長(48)は「足かけ4年の修復が無事完成し、感無量。色鮮やかによみがえり、心が晴れ晴れとします」と感慨深げに話していた。

石橋山の重さは「4750キロ」測定実演

正午すぎに曳山が集まったJR大津駅前。中央大通りでは、曳山の重量測定の実演が初めて行われた。

大津市曳山連盟は、昨年からの取り組みで、曳山の重量測定プロジェクトの締めくくりに、重さの上方が乗ってにぎやかにお囃子を奏でる中、道

路に計量器を敷き、曳山を載せた。電光掲示板に「4750キロ」と重量が表示されると、見物客から「そんなに重いのか」と声が上がった。